

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第2027号 2010年07月20日(火)

《 in progress 》

今週は既にマーケットが進行中なので、簡単に要点だけを。

週明けのニューヨークの株価は先週金曜日にダウで261ドルも下げたあとにも関わらず、小幅な反発で終わりました。同指数で56.53ドル高の引け。Nasdaqでは19.18ポイント高。これはもっぱらハリバートンなど一部企業の業績が良く、これら銘柄への買い物が入ったため。全体的には薄商いの中、気迷い気分が強く、市場が「上げに対して確信」を持っている様子は伺えなかった。23日の欧州の銀行に対するストレステストの結果待ちの様子。

反発が小幅にとどまった背景の一つは、米景気や金融政策の行方に対する気迷いだ。加えて、日本など海外経済への懸念もある。既に米6月末のFOMC議事録には「メンバーらは、異例の金融緩和策の実施時期からの出口戦略を展開し試していくことに加え、見通しが目に見えて悪化する場合には一段の金融刺激策を取ることが適切かどうかについて検討する必要があると指摘した」との記述があり、米経済の先行きにはやや暗い雲が立ちこめてきた。

FRBが米経済の成長率見通しを0.2%ポイント(新見通しは3.0-3.5%レンジ)引き下げていることから、「実際には出口戦略どころか、米経済への先行き懸念が強まっている」との見方も出ている。実際にこのところ発表される米経済指標は悪いものばかりだ。週明け19日に発表された全米住宅建設業協会(NAHB)の「7月の住宅市場指数」は市場予想以上に低下した。このため、住宅株が総じて下落。米景気の伸び悩み懸念が上値を抑えた面もある。

米景気、金融政策に対する先行き懸念が出ている中で、日銀の政策にも関心が集まっている。東証の株価が大きく下げ、日本の景気実態を全く映さない形で円高が対ドルでじわじわと浸透しているからだ。一方で日本の債券相場は、「金融緩和や景気後退をそれなりに織り込んだ水準になりつつある」との見方がある。

その点で注目されたのは、日本時間の月曜日深夜にアップされた「BOJ to Consider Action at 85-Yen Level」というウォール・ストリート・ジャーナルの記事だ。東京発の記事だからとあまり真剣に最初読んでいなかったが、連休中で実際にはお休み状態の国内の新聞よ

り突っ込んで書いていたので、ここにクオートします。この記事は、見つけた段階では同紙ネットサイトの一面トップだった。

《 consider taking additional easing steps 》

「TOKYO -- The Bank of Japan may consider taking additional easing steps to prevent the economy from worsening if the yen falls to around 85 to the U.S. dollar and stays there for a month or two, a person familiar with BOJ thinking said. In recent weeks, with Europe's sovereign-debt troubles still unsettling financial markets and concern growing that the global recovery is stalling, the yen has gained from about 89 against the dollar. On Friday the dollar briefly dropped to a seven-month low of 86.27 yen, and stayed around 86.65 yen on Monday.

The BOJ's view is that as long as the yen doesn't rise much from its current levels, Japan's economy should remain on the recovery track, a person familiar with the central bank's thinking said.

"But if the yen comes to stay around 85 against the dollar for one or two months, that could have an adverse effect on the economy," said the person. If that happens, the BOJ "may do something."

Financial market participants speculate that the BOJ may act whenever the yen rises strongly, but the central bank hasn't indicated a clear level at which it starts considering action. This is the first time persons familiar with the BOJ's strategy have suggested a concrete level, which could become a guideline for anticipating future monetary-policy changes in Japan.

Just what the BOJ might do isn't clear. Japanese authorities have stayed out of the currency market since March 2004, and few observers expect intervention now.

But the BOJ could provide the financial sector with extra funds by boosting the amount of Japanese government bonds it buys, increasing the amount of low-interest loans to the money market or lengthening the duration of such loans, BOJ watchers said. 」

主な内容は、「85円がらみの円高が1～2ヶ月続いたら、日銀は日本経済の悪化を防ぐために新たな緩和措置を検討するかもしれない」「それは恐らく外為市場への介入ではなく、日銀による“国債買い入れの増額”“金融市場への低金利融資増額”、またはこの手の融資

の“融資期間の延長”などだろう」というもの。

FRBも「出口戦略」どころではなく、米経済の成長率見通しを引き下げの中で、「新たな緩和」を検討しようかという状況。米緩和観測が出ている影響は「ドル安」となっており、「日銀が新たな緩和策」の見方には信憑性もある。

今朝の時点でも、外国為替市場では86円台の円高。日本の株も先週金曜日は非常に大きく下がったし、円高だから仕方がないと言えばそうだが（円高でドル建ての日本の株価は落ちないので、海外からは利食いの対象になる）、日銀としては日本経済の実力にあわせていく円と株価の水準は歓迎できないし、それを容認することは難しいでしょう。つまり、当面日米の金融政策に対する市場の関心が増すということになる。

今週の火曜日からの主な予定は以下の通り。

- | | |
|----------|---|
| 7月20日（火） | 5月景気動向指数（改定）
6月コンビニエンスストア売上高
米6月住宅着工件数
米6月建設許可件数
カナダ中銀金融政策決定会合
ブラジル中銀金融政策決定会合（21日まで）
北米6月半導体製造装置BBレシオ |
| 7月21日（水） | バーナンキ米FRB議長、半期に一度の金政策報告に関する議会証言（22日まで）
南ア準備銀行金融政策決定会合（22日まで） |
| 7月22日（木） | 5月全産業活動指数
米6月コンファレンスボード景気先行総合指数
米6月中古住宅販売件数
米5月住宅価格指数
ユーロ圏5月製造業受注 |
| 7月23日（金） | 欧州の銀行へのストレステストの結果公表 |

《 have a nice week 》

それにしてもどえらく暑い3連休でしたね。日中はなるべく外に出ないようにしなければいけないと思いながら、土曜日はゴルフで一日外にいて、その後も外出が続きました。まあゴルフは富士山麓の涼しい場所でしたが。“暑さ”は世界的にえらいことになっているようで、「史上最も暑い7月。涼求め水死110人に（モスクワ）」、「ドイツ超特急列車の冷房利かず...車内50度！」などなど。今週一週間は暑い日が日本でも続くようで、まあ日中は用がなければあまり外に出ない方が賢明かもしれない。それにしても、ドイツで38度超とは想像しがたい。

ところで、「悪いことは反省してもらう」「しかし伝統はしっかり守って欲しい」という気持ちで、月曜日は名古屋で9日目の大相撲を観戦しました。この3連休は人の入りも良かったそうで、月曜日も9割方の入りでしたし、いろいろあったにせよ、土俵の上は相変わらず暑かった。特に印象に残ったのは、豊真将が強い当たりで全勝を守った一番と全勝対決の鶴竜と白鵬の一番は凄かったな。山口県豊浦郡豊浦町（現下関市）出身の豊真将は、日本人力士の中で「横綱になる素質を持った力士」と以前稽古を見たときから期待していたのですが、最近は行ったり来たり。しかし今場所は体の張りも良く、期待しているのです。

それにしても、見ていて思ったのは、「日本人力士同士の勝負」がほんの数えるほどしかない。逆に最後の一番もそうですが「モンゴル対モンゴル」や「欧州対欧州」の対決が結構ある。まあ今回の騒動で出られなくなった力士に日本人力士が多かったこともあるが、見ながら「それにしても、凄まじい国際化だ」と思いました。大相撲は揉めているが、着実に国際的な興行になりつつある。

白鵬が国内的な事情による生中継中止などなどに不満を表明した気持ちも分かる気がしました。モンゴル、ブラジルでは多くの人が相撲中継を楽しみにしている。

それでは残りの一週間、皆様には良い時間を。

《当「ニュース」は住信基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》